

老鶯に観音様の声がして

薰風や路地の隅々吹き渡り

誕生石エメラルドとて豆の飯

勝利

防波堤上下するかに船卯浪

真理子

シオカラが縄張り決めて夏に入る

若葉風身重の母の手をとる子

早々と矢車だけを回しをり

潮風に玉巻く芭蕉荒津山

石炭のかがり火灯す祭町

節子

町名は「港」薄暑の船溜り

由紀子

ライ麦と名札立てられ麦熟るる

卯浪立つ河口平家の五輪塔

さくらんぼ路地の静かな日曜日

武者幟揚げをる人に道を聞き

光子

豆飯を持たせて駅へ次は秋